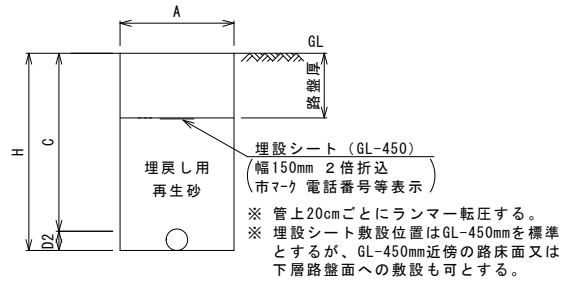


所沢市上下水道局水道管路布設工事標準仕様図

土工標準図

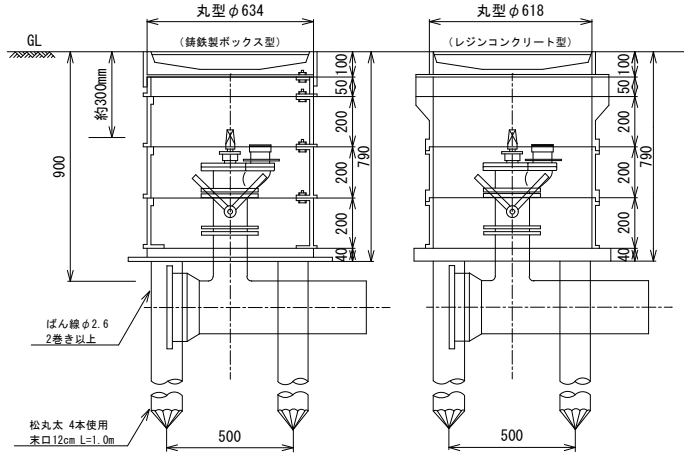


市道（車道）土被掘削表							単位：mm
口径	D	D100	D150	D200	D250	D300	D350
土被り	C	900	900	900	900	1000	1400
管外径	D2	118	169	220	271	322	374
掘削深	H	1018	1069	1120	1171	1322	1774
掘削上幅	A	600	600	600	650	700	950

※ 県道の土被りは路盤厚+300mmとする。

市道（歩道）土被掘削表							単位：mm
口径	D	D100	D150	D200	D250	D300	D350
土被り	C	750	750	750	750	1000	1400
管外径	D2	118	169	220	271	322	374
掘削深	H	868	919	970	1021	1322	1774
掘削上幅	A	600	600	600	650	700	950

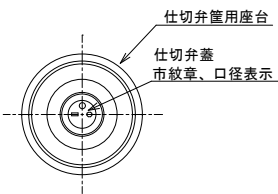
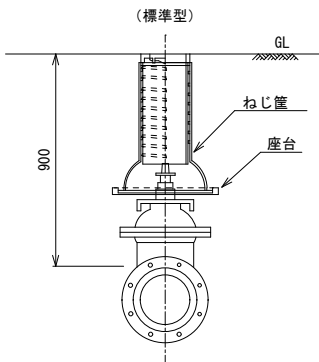
消火栓・排水栓・空気弁標準図



- ※ 鉄蓋の鍵穴は車両進行方向奥側に設置する。
- ※ 消火栓口金は鉄蓋の鍵穴側に設置する。
- ※ 補修弁レバーは布設方向左右のうち安全かつ容易に操作できる側とする。
- ※ 無収縮モルタル調整タイプは標準調整高さを5cmとする。
- ※ 底板部から補修弁操作に支障がない高さまで砕石（新材）を敷き均す。（15cm程度）

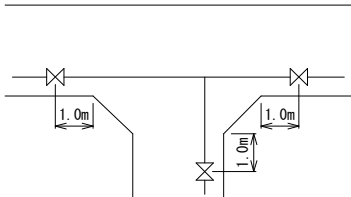
- ※ 1）消火栓・排水栓の場合
土被り 750mm・900mmの時、フランジ短管の設置無し
土被り 1100mmの時、両フランジ短管（H=150mm、H=100mm）を補修弁を挟んで設置
土被り 1300mmの時、両フランジ短管（H=300mm、H=150mm）を補修弁を挟んで設置
- ※ 2）空気弁の場合
土被り 900mmの時、フランジ短管（H=150mm）を設置

仕切弁標準図

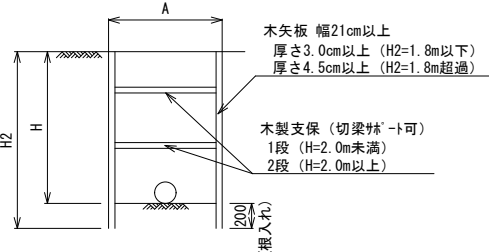


- ※ 1）ねじは一番低い状態から3回転上げた位置で据える。
- ※ 2）土被りが 900mm以上の時は、座台の下に塩ビ管（φ300）を設置する。

仕切弁位置図



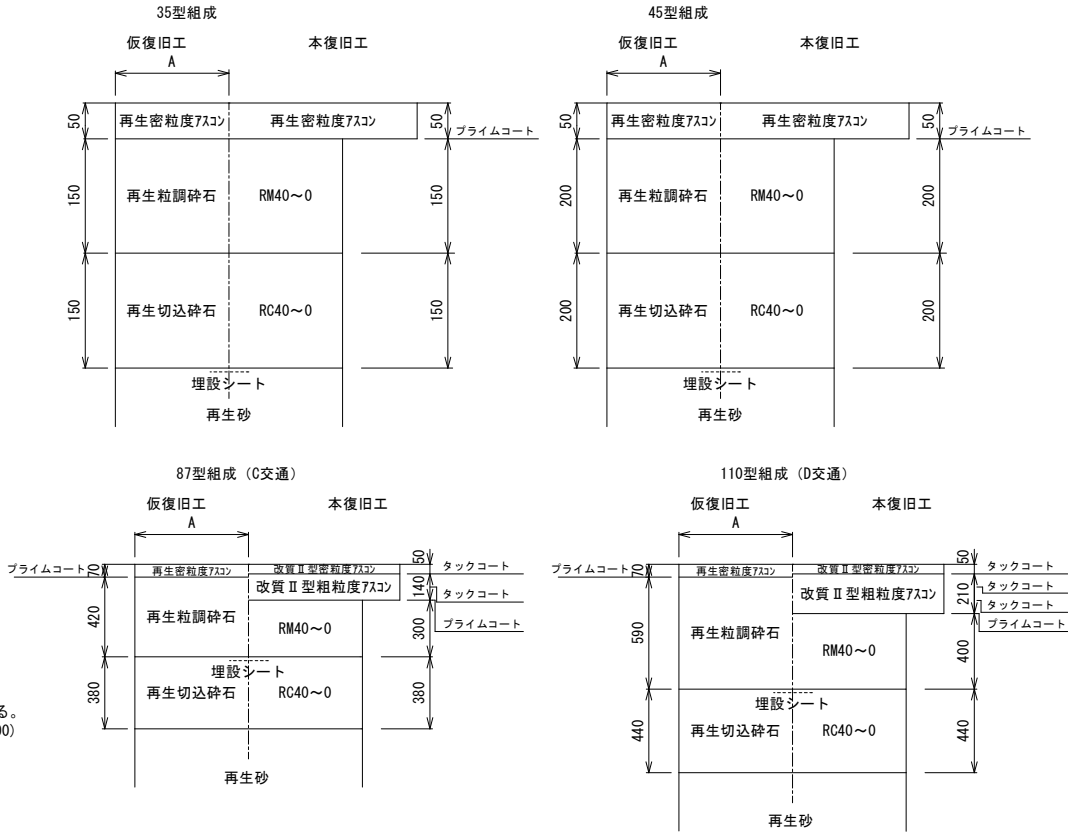
簡易土留工参考図



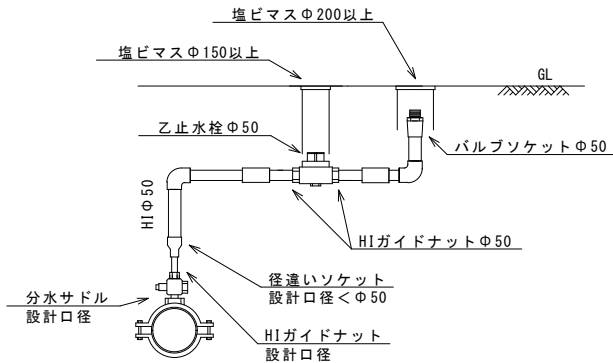
※ 設置箇所は押輪類、各種継手及び栓使用部等とする。

特記事項：上記簡易土留工参考図は標準掘削断面であり、現場状況によりこれにより難い場合は監督員と協議すること。

路面復旧組成図



エア抜き工参考図



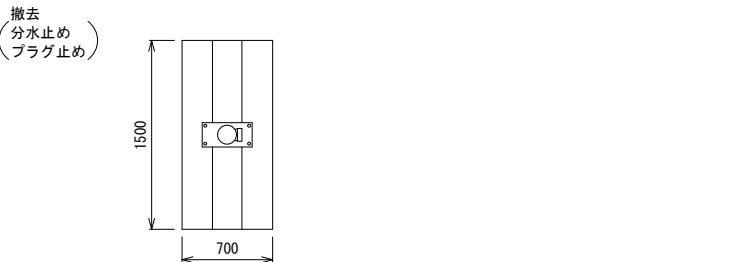
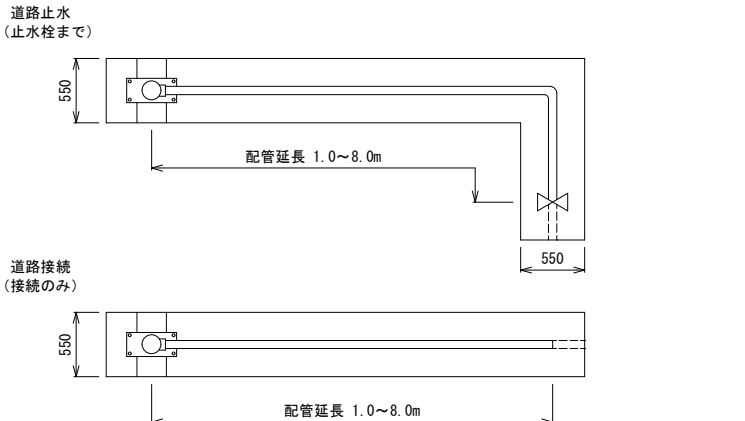
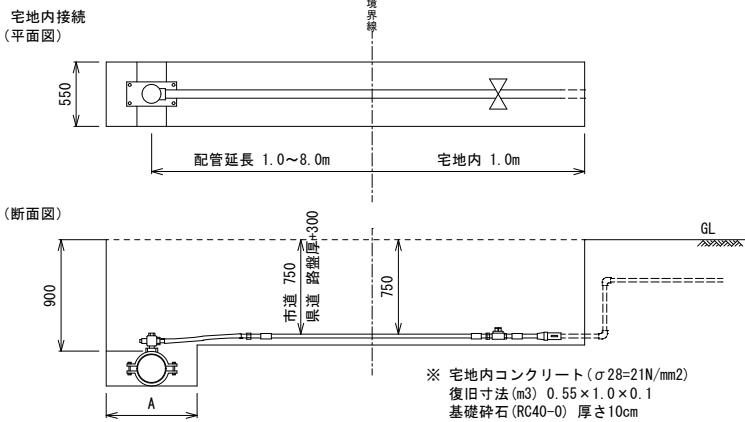
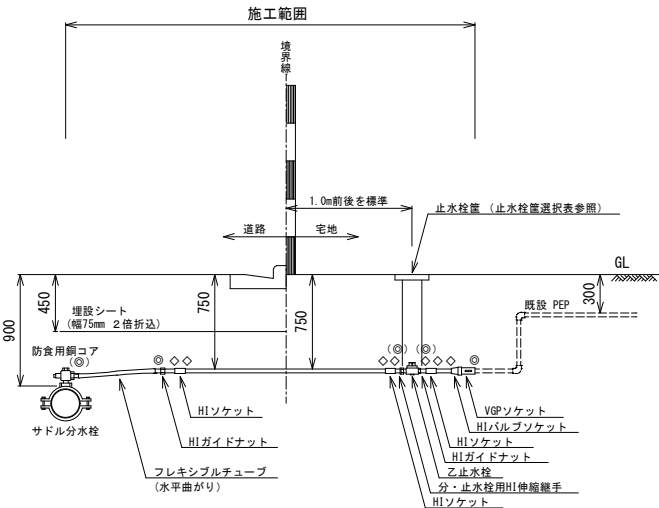
※ 撤去時は砲金キャップにより閉栓し、塩化ビニール管等で保護する。
分水箇所のオフセットは、竣工図に明記する。

配管記号

継手の形式	フランジ	— —
	メカニカル（K形）	—>
	メカニカル（NS形）	—>
	メカニカル（GX形）	—>
T字管		⌞
受け挿し片落管		⌞
挿し受け片落管		⌞
曲管		⌞
フランジ付T字管		⌞
継輪		⌞
両受短管		⌞
乙字管		⌞
帽		⌞
栓		⌞
ライナー使用受口		⌞

P-Link	⌞
G-Link	⌞
短管1号	⌞
短管2号	⌞
仕切弁（両受）	⌞
仕切弁（受挿し）	⌞
消火栓	⌞
消火栓（空気弁付）	⌞
排水栓	⌞
排水栓（空気弁付）	⌞
空気弁	⌞
空気弁（給水口付）	⌞
特殊押輪（メカニカルK形）	⌞
SP用無頭管継ぎ手	⌞
異種管継手（両受）（DIP管とSP管用）	⌞

給水装置分岐替標準図



止水栓筐選択表

口径	埋設方法	宅地内	道路止水
φ50		特大	特大
φ30		甲	特大
φ25		甲	特大

所沢市上下水道局管路布設標準仕様図（G X 形）

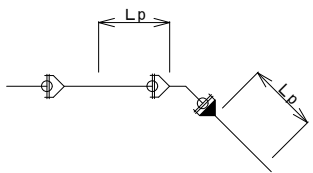
一体化長さ早見表

曲管部およびT字管部の一体化長さ

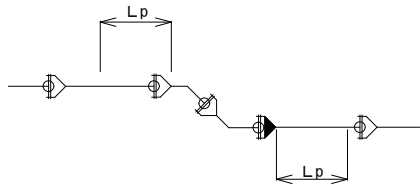
(呼び径75～300) 土被り0.6m以上								単位m	
呼び径	曲管部						T字管部		
	22.5° 以下		22.5° を超え 45° 以下		45° を超え 90° 以下				
	水圧 (MPa)		水圧 (MPa)		水圧 (MPa)		水圧 (MPa)		
	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	
75	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	4.0	1.0	1.0	
100						5.0			
150						6.0			
200						8.0			
250					2.0	6.0	11.0	2.0	7.0
300						7.0	7.0	16.0	7.0

(呼び径350・400) 曲管部											単位m			
土被り 1.2m							土被り 1.5m							
呼び径	22.5° 以下		22.5° を超え 45° 以下		45° を超え 90° 以下		呼び径	22.5° 以下		22.5° を超え 45° 以下		45° を超え 90° 以下		
	水圧 (MPa)							水圧 (MPa)						
	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3		0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	
	350			3.0		8.0		15.0	350			3.0		7.0
400	1.0	2.0	4.0	7.0	9.0	17.0	400	1.0	2.0	4.0	7.0	8.0	15.0	

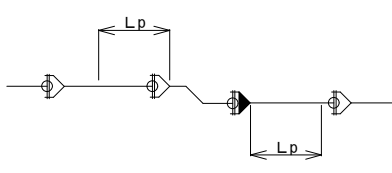
(呼び径350・400) T字管部 単位m									
本管側 呼び径	土被り 1.2m			本管側 呼び径	土被り 1.5m			本管側 呼び径	土被り 呼び径
	枝管側 呼び径		水圧(Mpa)		枝管側 呼び径		水圧(Mpa)		
	0.75	1.3			0.75	1.3			
350	350	7.0	14.0	350	350	7.0	13.0		
400	300	6.0	12.0	400	300	5.0	10.0		
	400	7.0	16.0		400	7.0	15.0		



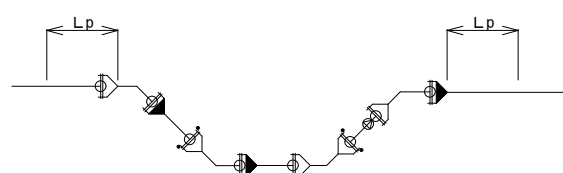
45° 曲管の前後にLpを確保する。



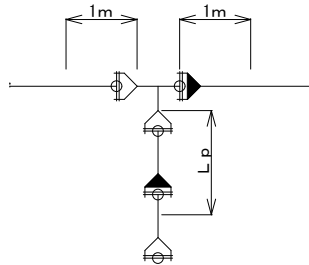
45° 曲管にそれぞれLpを確保する。



乙字管の前後にそれぞれLpを(45° 曲管の一体化長さ)を確保する。

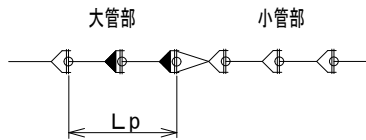


左右の45° 曲管の外側にそれぞれLpを確保する。(曲管間がすべて一体化された伏せ越し、切り回し配管の例)

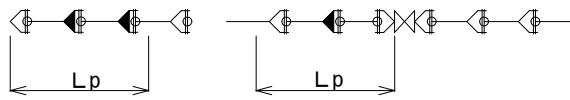


本管側にそれぞれ1mを確保。
枝管側には表の一体化長さを確保する。

片落管部



管端部および仕切弁部



単位m											
呼び径		土被りh=0.6m		土被りh=0.8m		土被りh=1.0m		土被りh=1.2m		土被りh=1.4m	
		水圧(MPa)		水圧(MPa)		水圧(MPa)		水圧(MPa)		水圧(MPa)	
大管	小管	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3
100	75	3.5	6.0	3.0	4.5	2.5	4.0	2.0	3.5	1.5	3.0
150	100	6.5	11.0	5.0	8.5	4.0	7.0	3.5	6.0	3.0	5.0
200	150	6.5	11.0	5.0	8.5	4.0	7.0	3.5	6.0	3.0	5.5
250	200	6.5	11.0	5.0	8.5	4.5	7.0	3.5	6.0	3.0	5.5
300	100	18.0	31.5	14.5	25.0	12.0	20.5	10.5	17.5	8.5	15.5
	150	15.5	26.5	12.0	21.0	10.0	17.5	8.5	15.0	7.0	13.0
	200	11.5	19.5	9.0	15.5	7.5	13.0	6.5	11.0	5.5	9.5
	250	6.5	10.5	5.0	4.0	4.0	7.0	3.5	6.0	3.0	5.5
350	150	—	—	—	—	—	—	10.5	18.5	9.5	16.0
	200	—	—	—	—	—	—	9.0	15.0	8.0	13.5
	250	—	—	—	—	—	—	6.5	11.0	5.5	9.5
	300	—	—	—	—	—	—	3.5	6.0	3.0	5.5
400	200	—	—	—	—	—	—	11.0	19.0	9.5	12.5
	300	—	—	—	—	—	—	6.5	11.0	11.0	9.5

単位m											
呼び径		土被りh=0.6m		土被りh=0.8m		土被りh=1.0m		土被りh=1.2m		土被りh=1.4m	
		水圧(MPa)		水圧(MPa)		水圧(MPa)		水圧(MPa)		水圧(MPa)	
0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3
75	7.5	12.5	5.5	9.5	4.5	8.0	4.0	6.5	3.5	5.5	
100	9.0	15.5	7.0	12.0	5.5	9.5	5.0	8.0	4.0	7.0	
150	12.5	21.0	9.5	16.5	8.0	13.5	6.5	11.5	6.0	10.0	
200	15.5	26.5	12.0	20.5	10.0	17.0	8.5	14.5	7.0	12.0	
250	18.5	31.5	14.5	25.0	12.0	20.5	10.0	17.5	9.0	15.0	
300	21.0	36.0	16.5	28.5	14.0	24.0	12.0	20.5	10.5	17.5	
350	—	—	—	—	—	—	13.5	23.0	12.0	20.0	
400	—	—	—	—	—	—	15.0	25.5	13.0	22.5	

P-link使用による伸び量

単位mm		
呼び径	P-Linkの有効長	P-Linkによる伸び量
75	180	17
100	180	20
150	210	23
200	220	22
250	220	23
300	267	20

ライナー使用による有効長伸び量

単位mm			
呼び径	ライナー幅A	標準胴付寸法Y	(A-Y)
75	74	45	29
100	74	45	29
150	99	60	39
200	99	60	39
250	99	60	39
300	126	72	54
350	130	74	56
400	130	75	55

継輪の標準間隔

単位mm	
呼び径	標準間隔
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
350	300
400	300

配管記号（G X 形）

T字管		乙字管	
受け挿し片落管		P-L i n k	
挿し受け片落管		G-L i n k	
曲管		帽	
フランジ付T字管		ライナー使用受口	
継輪		短管1号	
両受短管		短管2号	

Sベント寸法表

曲管 呼び径	45° 曲管		22° 曲管		11° 曲管		5° 曲管	
	L	H	L	H	L	H	L	H
75	682	282	692	137	673	66	678	33
100	716	296	731	145	713	70	718	35
150	802	332	788	156	732	72	738	36
200	904	374	865	172	812	79	818	40
250	973	403	884	176	812	79	818	40
300	973	403	904	180	792	78	748	37
350	1050	435	943	188	812	80	758	37
400	1118	463	962	191	832	82	778	38

切管最小長さ

呼び径	G X 形 単位mm			
	切管ユニット使用する場合		切管用挿しロリングを使用する場合	
	甲切管	乙切管	甲切管	乙切管
75	660	770	700	770
100	660	770	720	770
150	680	770	740	770
200	680	770	740	770
250	680	770	740	770
300	720	820	760	820
350	—	—	970	1010
400	—	—	970	1020

許容曲げ角度

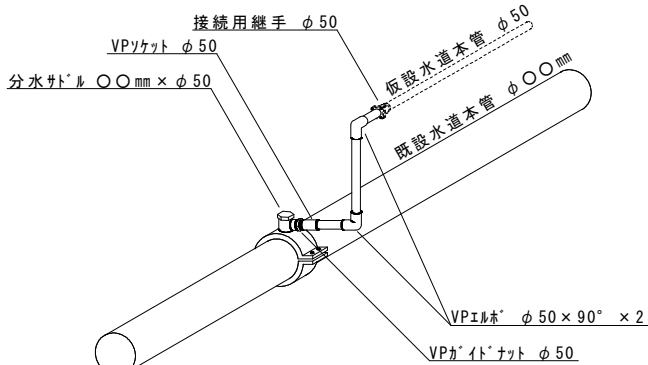
呼び径	曲げ角度	管1本当りに許される偏位(cm) 単位cm		
		4m管	5m管	6m管
75	4° 00′	28	—	—
100	4° 00′	—	35	—
150	4° 00′	—	35	—
200	4° 00′	—	35	—
250	4° 00′	—	35	—
300	3° 00′	—	—	31
350	3° 00′	—	—	31
400	3° 00′	—	—	31

水圧は1.3MPa、土被りは現場状況に準じる。

給水仮設工標準図

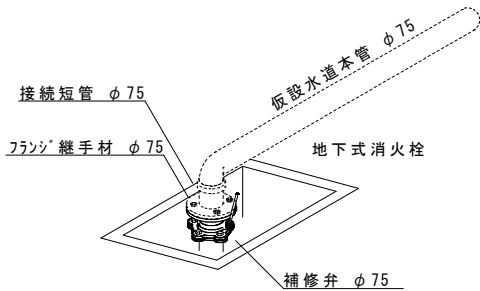
仮設水道本管取出し標準図

① φ50



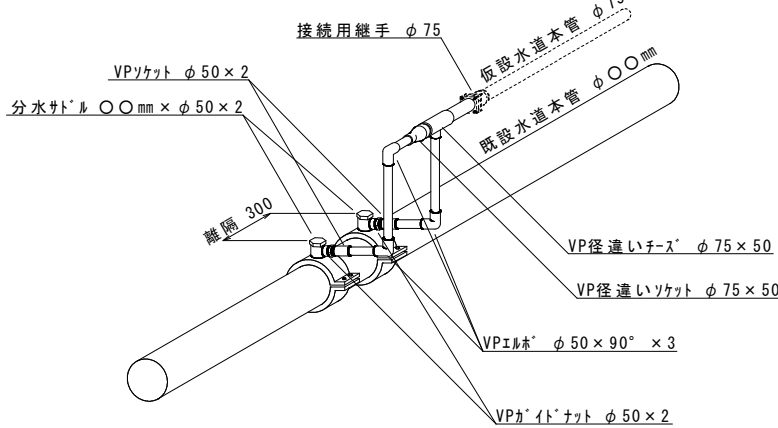
※撤去時は砲金キャップにより閉栓し、塩化ビニール管等で保護する。
分水箇所のオフセットは、竣工図に明記する

④ φ75（地下式消火栓からの取出し）



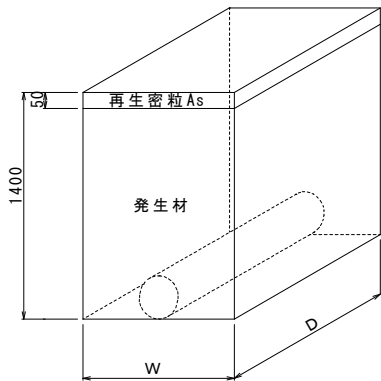
※消火栓筐の一段目を削りし、仮設水道管を配管する
撤去時は消火栓筐の一段目を新しいもので復旧する
消火栓から取出した日の内に仮設消火栓まで配管し、
ドレインを行い、使用できる状態にする

② φ75



※撤去時は砲金キャップにより閉栓し、塩化ビニール管等で保護する。
分水箇所のオフセットは、竣工図に明記する

⑤ 取出し土工標準図

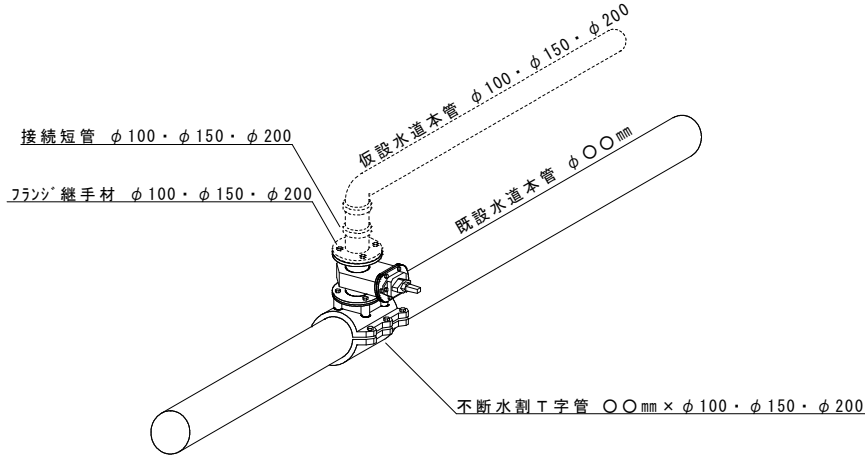


※仮設配管を露出配管とする場合は監督員と協議し、
エアを吐けるよう露出箇所毎に取出し短管を施すこと

	φ 50	φ 75	φ 100	φ 150	φ 200
D	1000	1000	1000	1000	1000
W	600	600	1000	1000	1000

※埋戻材は発生材とする
撤去時の舗装組成は本復旧の組成を参照する

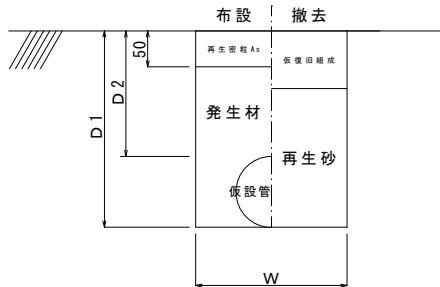
③ φ100・φ150・φ200



※撤去時はフランジ蓋により閉栓し、塩化ビニール管等で保護する
不断水取出し箇所のオフセットは、竣工図に明記する

仮設管埋設標準図

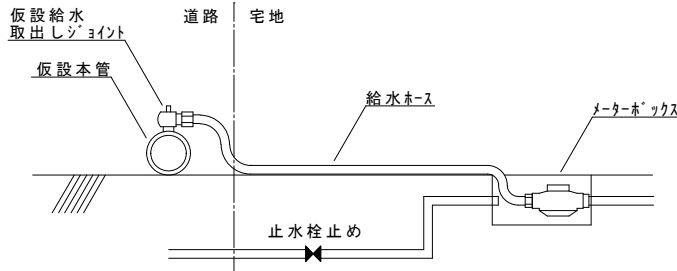
給水管・φ50・φ75・φ100・φ150・φ200



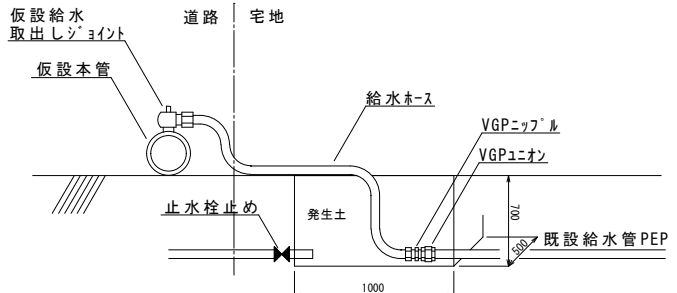
	給水管	φ 50	φ 75	φ 100	φ 150	φ 200
D 1	300	300	530	600	850	900
D 2	275	250	450	500	700	700
W	300	300	300	300	400	500

仮設給水管接続標準図

① メーター接続

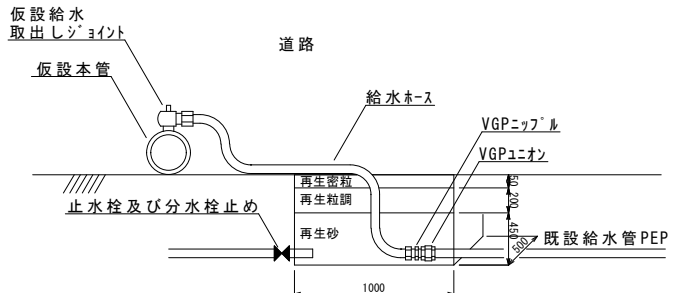


② 宅地内接続



※撤去時の土工は給水管布設工に含まれる

③ 道路接続



※撤去時の土工は給水管布設工に含まれる

特記仕様

- 仮設配管及び配管上のバルブ等の突起物には、歩行者や車両等の安全を確保するために、安全施設（カラーコーン等）の設置を行うこと。
- 仮設配管材料内に異物が混入していないか確認すること
又、接続する給水管に泥・布等が入らないように注意をすること。
- 仮設配管を露出配管とする場合は監督員と協議し、露出箇所毎にエアを吐けるよう施すこと。
（露出用仮設消火栓、取出短管等）
- 仮設管による給水切り替えを行う場合、使用者に必ず断水のお知らせをすること。
- 給水切り替え後は、使用者の外水栓等を借用し、断水により剥離された水アカ、サビ等を除去すること。
- メーター接続で、やむを得ずメーターボックス外で接続する場合、メーターは水平に設置すること。
- メーター接続箇所では仮設から本設に戻す場合、メーターパッキンは新しいものを使用すること。
- 工事が冬季(12月～3月)にかかる場合は、露出している給水管を防寒し凍結による出水不良が起らないようにすること。
- 施工するに当たり不明な点があった場合、監督員の指示を仰ぐこと。